



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

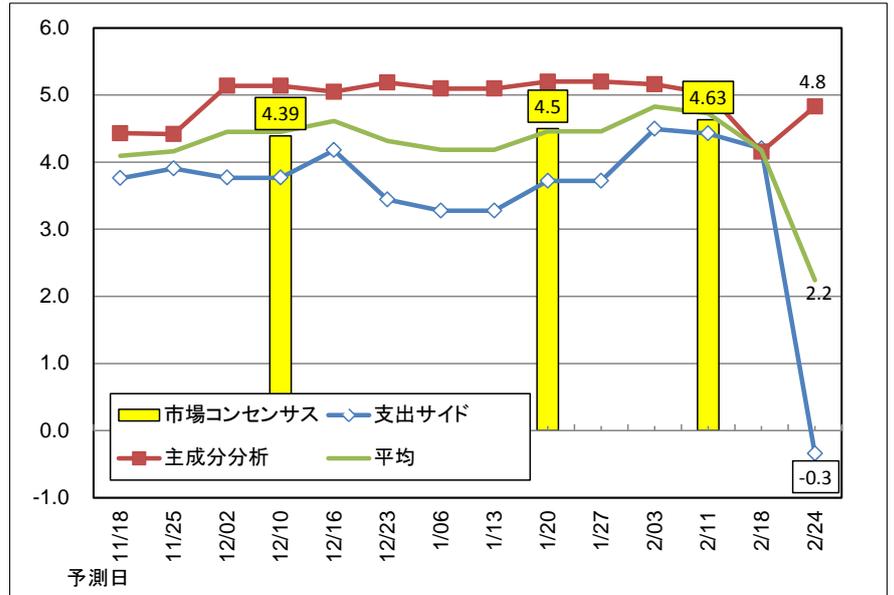
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年2月24日)

ポイント

- ▶今回更新されたデータは、1月の貿易統計、12月の毎月勤労統計(確報値)及び全産業活動指数である。これらのデータは純輸出及び雇用者報酬の予測に影響を与える
- ▶1月の貿易収支(季節調整値)は35ヵ月連続の赤字。消費増税による駆け込み需要の一時的な輸入押上げ要因もあり、1-3月期の貿易赤字は拡大に歯止めがかからない。
- ▶1月貿易統計により、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から大幅下方修正された。
- ▶今週の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率-0.3%と予測。先週から大幅下方修正された。内需は引き続き堅調だが、純輸出のマイナス寄与度がそれを相殺する。
- ▶13年度の成長率は前年比+1.9%となろう。日銀は13年度成長率を+2.7%と見方を変えていないが、1月の貿易統計はこれに対して相当なダウンサイドリスクとなろう。

CQM予測の動態：実質GDP成長率
2014年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<1月貿易統計により日銀の成長率の見方にダウンサイドリスク高まる>

今回更新されたデータは、1月の貿易統計、12月の毎月勤労統計(確報値)及び全産業活動指数である。これらのデータは純輸出及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

1月の貿易収支は-2兆7,900億円と過去最大の赤字となった。19ヵ月連続の赤字で、前年同月比+70.8%拡大した。季節調整値は-1兆8,188億円と35ヵ月連続の赤字となり、前月比+44.5%増加した。消費増税の駆け込み需要などの一時的な輸入押上げ要因もあり、1-3月期の貿易赤字は拡大に歯止めがかからない。

1月の輸出金額は前月比-3.5%と2ヵ月ぶりのマイナス。実績値は事前予測を下回ったため、1-3月期の実質財貨・サービス輸出の予測値は先週から大幅下方修正された。一方、1月の輸入金額は同+4.7%と2ヵ月ぶりのプラスとなった。実績値は事前予測を上回ったため、1-3月期の実質財貨・サービス輸入の予測値は先週から大幅上方修正された。実質財貨・サービス輸出の予測値は先週から下方修正、同輸入の予測値は上方修正されたため、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から大幅下方修正された(6.687兆円→0.765兆円)。

今週(2/24)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比-0.1%、同年率-0.3%と予測する。先週の予測(+4.2%)から大幅下方修正された。内需は引き続き堅調(前期比+0.8%)だが、純輸出のマイナス寄与度(前期比-0.9%)がそれを相殺する。13年度の成長率は前年比+1.9%(先週:+2.2%)となろう。日銀は13年度成長率を+2.7%と見方を変えていないが、1月の貿易統計はこれに対して相当なダウンサイドリスクとなろう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690